

特定失踪者

県警、親族DNA調査

「拉致認定進展」望みつつなく

北朝鮮による拉致の可能性を排除できない特定失踪者の問題で、県警が親族など関係者のDNA調査に乗り出したことが十二日、関係者の証言で明らかになった。県警のDNA採取を受けた親族の一人は「何かあった時に照合するために保存する」と話だった。家族も高齢化しており、拉致被害者認定へ向け「何かわかれば」と話している。

する理由が見当たらない。生きていれば六十歳。何か進展があれば」と望みをつなぐ。

◇ 昨年十一月一日現在の警察庁外事課による特定失踪者の調査対象者数は、一県警による

単独捜査が七百二十人（うち女性二百四十七人）、複数県警の共同捜査が百四十七人（二百三十一人）で、ほか警察庁国際テロリズム課が所管する高知県出身の女性一人がおり計八百六十八人。本県関係では単独捜査で三人（同一人）が該当する。

九月二十二日）③埼玉県川口市の井上克美さん（七一年十二月二十九日）④福井県小浜市の山下春夫さん（七四年八月十七日）の四人のほか、非公開の一人がいるという。

親族らのDNA調査は今年一月、神奈川、埼玉の救う会を中心に全国の家族らが連名で警察庁に依頼していた。

最近、県警担当者の訪問を受けたという特定失踪者の親族は、「書類を書いて、口の中の粘膜をとられた」と話す。実の兄が失踪して四十年以上がたつといい、「給料日ですテレオの月賦を電気店に払って店の前のバス停を最後に消息を絶った。自動車の教習所の予定も立てており失踪

「救う会・群馬」群馬ボランティアの会」事務局長の大野敏雄さんは「八百六十八人もいたのかと驚く。川口で失踪した井上さんの実家は前橋だが、共同捜査にはなっていないようだ」と話す。

大野さんらは入手した情報を近く県警に照会したい意向だ。

（池田一成）

特定失踪者問題調査会（荒木和博代表）のホームページなどによると、特定失踪者は全国で四百七十人。県内関係者では①安中市で失踪した横田道人さん（一九七〇年一月二十七日）②旧群馬町の加藤八重子さん（七八年

特定失踪者問題調査会（荒木和博代表）のホームページなどによると、特定失踪者は全国で四百七十人。県内関係者では①安中市で失踪した横田道人さん（一九七〇年一月二十七日）②旧群馬町の加藤八重子さん（七八年

特定失踪者問題調査会（荒木和博代表）のホームページなどによると、特定失踪者は全国で四百七十人。県内関係者では①安中市で失踪した横田道人さん（一九七〇年一月二十七日）②旧群馬町の加藤八重子さん（七八年

特定失踪者問題調査会（荒木和博代表）のホームページなどによると、特定失踪者は全国で四百七十人。県内関係者では①安中市で失踪した横田道人さん（一九七〇年一月二十七日）②旧群馬町の加藤八重子さん（七八年